



▲答申を提出する渡辺啓子副会長

総合計画審議会
最終答申を市へ提出

2月27日、総合計画審議会から市へ、総合計画素案への答申が提出されました。総合計画は、市の総合的な運営指針となる計画で、東日本大震災を受け見直しがされてきました。

審議会から答申を受け取った高松市長は、「皆さんで考えていただいた内容を尊重し、運営にあたっていきたい」と話しました。



▲委嘱状を受け取る審議会の委員の皆さん

男女共同参画審議会委員を委嘱
男女が尊重し合える社会づくりを

2月27日、男女共同参画基本計画を策定するため市役所で審議会が開かれました。会議では、教育関係や女性団体など各分野から12人の委員に委嘱状が交付されました。委員の皆さんは、男女がお互いに尊重し合える社会づくりのため、意見を交わしました。

今後は、パブリックコメントでの市民の意見を取り入れながら、素案を審議していく予定です。



▲式には、水道工事指定店や安積疏水土地改良区の皆さんなど水道関係者約90人が出席しました

本宮の水道
創設80周年を祝う

市の水道事業が昭和8年の給水開始から創設80周年を迎えたことから、2月28日、ネーブルシティもとみや a u b e で創設80周年の記念式典が執り行われました。また、旧白沢村の水道事業も平成5年の給水開始から20年を迎えます。

式では、高松市長が、「将来にわたって安定した給水を持続するため、より一層努力していきたい」とあいさつを述べました。

相模女子大学
2週間わたる冬期地域協働活動



1.復興の集いで調理を手伝った学生の皆さん/2.FMモットコムに生出演/3.フルーツバスケットで楽しみながら英語指導/4.ハウスの草むしりや野菜の収穫などの農業体験



■それぞれが学んだ
冬の17日間

2月24日から3月12日にかけて、神奈川県相模原市の相模女子大学の学生総勢43人が6回に分けて本宮市を訪れ、農業体験や小学校での英語教室などさまざまな活動に挑戦しました。

第1弾で市を訪れた英語文化コミュニケーション学科の学生5人は、市内の小学校5・6年生を対象に英語教室を行いました。学生たちは自身で授業を考え、フルーツバスケットなどのゲームを通して、英単語をわかりやすく子どもたちに教えました。子どもたちからは笑顔があふれ、楽しみながら英語に慣れ親しんでいました。

第6弾で訪れた学生のうち4人は、市内のFMモットコムでラジオ生出演をしたり、実際に30分番組の制作を企画し収録までを体験していました。

相模女子大学
(左から)
中河由衣さん
小山あゆみさん
川嶋千賀子さん
松岡里奈さん



大学で募集を見て参加しました。みんな写真部の仲間です。1週間の活動はとても楽しく、野菜など普段食べているものが作られる過程が勉強になりました。ごはんもとてもおいしかったです。

本宮は、人と人の距離が近くて、知らない人同士でもすぐ仲良くできるところが素敵です。

これから本宮の復興のためには、もっと本宮を知ってもらって、全国に発信していくことが必要だと思います。

■復興に協力して
いただいています

3月9日に行われた「復興の集い」では、学生の皆さんに協力してもらい、食の交流会で来場者に振る舞う、特産品を食料にした料理を作ってもらいました。

また、物産品販売コーナーでは、地元産品や交流のある市町村の名産品の販売に協力してもらいました。

これまでも、相模女子大学の学生には、学園祭で本宮のPRをしてもらったり、浅草浅草寺で行われる復興市で販売に参加してもらったりなど、本宮市の復興にご協力をいただいています。